

# NHKの衛星放送の保有チャンネル数に関する検討の視点について

平成19年10月16日(火)

総務省

# 検討の視点（案）（全体イメージ）

Step1

## 【NHKの衛星放送の位置付け】

- ◆ NHKの衛星放送に対して、国民視聴者は何を求めているか。

### 【視点1】

公共放送における地上放送と衛星放送の関係

### 【視点2】

現在のNHKの衛星放送に対する評価

### 【視点3】

今後の難視聴対策の在り方

### 【視点4】

衛星放送の各チャンネルの目的

### 【視点5】

その他、新たな役割

### 【視点6】

HD化

Step2

## 【民放等との関係】

- ◆ 国民視聴者の負担は適正なものとなっているか。
- ◆ 民間放送事業者等との関係で、問題はないか。

### 【視点7】

国民視聴者の経済的負担

### 【視点8】

民間放送事業者への影響

### 【視点9】

コンテンツ制作分野への影響

Step3

## 【適切な衛星放送の保有チャンネルの在り方】

- ◆ NHKの衛星放送として、どのような目的のチャンネルが、いくつ必要なのか。

# 各視点について（1）（Step 1【NHKの衛星放送の位置付け】）

## 【視点1】公共放送における地上放送と衛星放送の関係

- 主要諸外国において、公共放送における衛星放送は、地上放送を同じ番組を放送するのが中心。
- ◆ 公共放送における地上放送と衛星放送の関係をどのように捉えるべきか。

## 【視点2】現在のNHKの衛星放送に対する評価

- 現在、NHKは、「衛星系による放送の普及」、「難視聴解消」、「高精細度テレビジョン放送の普及」を目的とするチャンネル3つを、衛星付加受信料945円/月で国民視聴者に提供。
- ◆ このような現状をどう評価すべきか。また、評価するにあたって、NHKの衛星放送の現在の視聴者の利益をどのように考えるか。

## 【視点3】今後の難視聴対策の在り方

- 現在、地形等の要因により、NHKの地上アナログ放送が視聴できない世帯に対する難視聴対策について、BS2により措置。
- 地上放送のデジタル化にともない発生する「新たな難視聴」等に対して、衛星によるセーフティネットを措置予定。
- ◆ 2011年以降の難視聴対策の在り方について、どのように考えるべきか。

## 【視点4】衛星放送の各チャンネルの目的

- 現在、NHKの衛星放送のチャンネルの目的については、難視聴対策以外に、「衛星系による放送の普及」等と整理。
- ◆ 今後、これらの目的を維持・継続していくべきか。また、新たな目的を設定すべきか。

## 【視点5】その他新たな役割

- ◆ 公共放送による衛星放送に対して求められる新たな役割はあるのか。

## 【視点6】HD化

- NHKの衛星放送は、現在、SD2チャンネル、HD1チャンネルの体制。
- HD化を行うと、高画質化が実現する反面、使用する周波数帯域も増加し、コストも増。
- ◆ 今般の保有チャンネル数見直しに際して、HD化をどのように考えるか。

# 各視点について（2）（Step 2 【民放等との関係】）

## 【視点7】国民視聴者の経済的負担

- ◆ チャンネル数を削減した場合、現在月額945円となっている国民視聴者の経済的負担はどの程度下がるのか。
- ◆ それは、国民視聴者がNHKの衛星放送を受信することで享受する利益とバランスの取れたものとなっているか。

## 【視点8】民間放送事業者への影響

- ◆ NHKの衛星放送の保有チャンネル数の見直しが、周波数割当、競争といった側面で、民放、とりわけ衛星放送事業者に対して、どのような影響を及ぼすのか。

## 【視点9】コンテンツ制作分野への影響

- NHKにおいては、必ずしも視聴率にとらわれない番組制作が可能であり、そのような観点からのコンテンツ制作の機会を提供。
- ◆ NHKの衛星放送の保有チャンネル数の見直しが、コンテンツ制作分野に対して、どのような影響を及ぼすのか。